

「権力犯罪を許さない 忘れない、糟谷孝幸君追悼 50 周年集会」

2020 年 1 月 13 日 (月・休) 午後 1 時半～午後 5 時

プログラム

敬称略

1:00 受付開始

1:30 開会 司会：田中幸也（世話人）・高村幸子（ふえみん岡山）

司会紹介&黙祷

主催者挨拶：「糟谷追悼 50 周年にあたって」

内藤 秀之（世話人・日本原農民）

連帯挨拶

山崎 建夫（山崎博昭プロジェクト）

講演：「1969 年とは何であったのか」

海老坂 武（フランス文学）

特別報告：「糟谷虐殺告発運動の報告」

荒木 雅弘（糟谷君虐殺事件告発を推進する会 元事務局）

休憩

メッセージ紹介

スピーチ

扇谷昭・加納洋一（岡山大同級生）、山本久司（11.13 闘争元被告団）

水戸喜世子（山崎プロジェクト）、山崎雅毅（石垣島）、松井祐子（沖縄）

中川憲一（元三里塚管制塔被告）、岩木要（元プロ学同委員長）

その他

閉会あいさつ

白川 真澄（世話人）

※集会後、扇町公園へ移動して、現場で献花を行いますのでご参加ください（5:00 終了）。

※集会後の懇親会への参加については、受付時にお願いします。

講演資料

■1967年

- 1月 6日 ベトナム参戦のアメリカ軍47万3000人。朝鮮戦争を上回る。
- 9日 北京天安門広場で紅衛兵による劉少奇、鄭小平、打倒大会。
- 25日 東大医学部学生自治会がインターン制度廃止などを要求して無期限スト。
- 2月11日 初の建国記念日。
- 17日 第二次佐藤内閣。
- 21日 足尾銅山の鉱毒、渡良瀬川に。
- 4月15日 美濃部亮吉、都知事に。アメリカで大規模の50万人のベトナム反戦デモ。
- 28日 モハメッド・アリ、徴兵宣誓を拒否。タイトル剥奪。
- 5月 2日 B・ラッセルらの提唱によるベトナム戦犯裁判が開廷。アメリカに有罪判決。
- 6月 5日 第三次中東戦争（6日戦争）。イスラエル軍ガザを占領。
- 12日 新潟水俣病患者、昭和電工相手に訴訟。
- 7月23日 デトロイトで黒人暴動。
- 9月14日 法政大で学生処分を巡り学生の団体交渉。総長らを監禁。警官導入。
- 10月 8日 佐藤首相、南ベトナム他の東南アジア訪問に出発。全学連各派が羽田周辺で警官隊と衝突。山崎君が虐殺される。第一次羽田闘争。
- 9日 チェ・ゲバラ、ボリビヤ山中で逮捕。翌日射殺。
- 21日 ベトナム人民支援国際統一行動日。国内370箇所で開催。150万人
- 11月2日 那覇市で沖縄即時無条件返還要求大会。10万人参加。
- 11日 由比忠之進氏、佐藤首相の米軍北爆支持に抗議し首相官邸前で焼身自殺。
- 12日 佐藤首相、訪米に出発。第二次羽田闘争。
- 13日 ベ平連記者会見。米空母イントレピッド号から四人の兵士が脱走。これを支援し国外に送り出したことを発表。

■1968年

- 1月18日 原子力空母エンタープライズの佐世保寄港阻止で5万人集会。
- 24日 「イントレピッドの夕べ」日高六郎、宮崎繁樹 もののべながおき。
- 2月—4月 米軍王子野戦病院建設反対闘争。
- 2月20日 金嬉老が寸又峽の旅館に立てこもり朝鮮人差別を訴える（人質13人）
- 26日 成田空港反対闘争本格化。警官隊と衝突、重軽傷400人。
- 3月16日 南ベトナムのソンミ村でアメリカ軍による村民虐殺。
- 4月4日 キング牧師、銃撃され死亡。全米各地で抗議運動。
- 15日 日大経理で20億円の使途不明金。日大紛争の発端。
- 5月 3日 フランス、パリ大学ナンテール分校で学生と警官が衝突。
- 4日 ソルボンヌ分校閉鎖。学生のもも拡大。5月革命の始まり。
- 5月27日 日大全学共闘会議結成、秋田明大議長。
- 6月 「情況」創刊

- 8月13日 ベ平連、京都で「反戦と変革に関する国際会議」開催。15日まで。
- 16日 嘉手納基地前の集会でベ平連の活動家ら13人逮捕。
- 20日 ソ連軍、チェコに侵攻。「プラハの春」の終わり。
- 10月21日 国際反戦デー。全国600箇所集会やデモ。新宿駅占拠。
- 11月 東京外語大、安東次男辞職勧告事件

■1969年

- 1月18日 警視庁、8500人の警官を動員し、東大安田講堂などの封鎖解除を開始
- 19日 封鎖解除。東大構内で633人を逮捕。20日、山本義隆に逮捕状。
大内兵衛「東大を滅ぼしてはならない」(世界3月号)
- 27日 イントレピッド四人の会集 500人参加。
- 2月 4日 沖縄「いのちを守る県民共闘会議」B52の撤去要求。
- 18日 日大で機動隊導入。全学の封鎖解除。
- 3月12日 指名手配中の日大秋田明大共闘会議議長を逮捕。
- 16日 東京外国語大学で機動隊導入、封鎖解除。
- 4月 「東大闘争を支援する会」「救援連絡センター」結成。水戸巖
- 15日 「水俣病を告発する会」発足。
- 27日 ド・ゴール大統領退陣。(6月15日、ポンピドーが選出)
- 28日 沖縄デー。社共統一中央集会。那覇で戦後最大の本土復帰デモ。反代々木系学生
による銀座、有楽町の道路占拠。国電ストップ。
- 5月17日 一橋大学全学闘争委員会、国立本校の本館封鎖。6月
- 5月29日 全共闘支持の大学教員200人が「大学を告発する全国教官報告集会」開催
- 6月15日 日比谷。反戦反安保集会。山本演説。
- 28日 新宿西口のフォーク集会に7000人集まる。機動隊と衝突、64人逮捕。
- 7月 1日 「ジャテックは闘う」講演と映画「脱走兵通信」発刊。
- 8月27日 「男はつらいよ」封切り。寅さんシリーズ第1作。
- 9月 3日 早大で機動隊導入、大隈講堂、学生会館の封鎖解除。90人逮捕。
- 3日 北ベトナム、ホー・チ・ミン大統領死去。
- 21日 京大で機動隊導入、助教授含め56人逮捕。
- 22日 赤軍派学生、大阪、京都で交番襲撃。
- 10月15日 アメリカ全土でベトナム反戦大集会。100万人以上参加。
- 21日 国際反戦デー。反代々木系学生各地で機動隊と衝突、1505人逮捕。
- 11月13日 沖縄祖国復帰協議会が佐藤訪米に反対して県民大会、10万人参加。
大阪で佐藤訪米阻止闘争、岡山大学糟谷孝幸君機動隊に虐殺される。
- 16日 反安保全国実行委員会、沖縄連共催の首相訪米抗議集会。全国120カ所で集会、
72万人参加。新左翼各派、火炎瓶闘争、逮捕者2093人。
- 17日 佐藤訪米、454人逮捕。1970年の沖縄の施政権返還を決める。

年	告 発 付 審 判	11.13闘争裁判
1969年	11.13 糟谷君暴行を受け逮捕さる 11.14 糟谷君死亡 12.14 糟谷君虐殺抗議中央人民葬 12.14 逮捕3警官を91名で検察庁に告発	
1970年	1.26 告発団、検察庁に捜査促進申入れ 1.27 毎日新聞「松倉鑑定書」を報道 「糟谷君の死因はデモ隊が振った鉄棒が 誤って糟谷君の頭に当たったとするのが適当」 4.16 告発団、検察庁に捜査促進申入れ	7.9 第1回公判(実質審理なし) 9.12 第2回公判(起訴状朗読) 11.24 第3回公判(起訴状朗読)
1971年	2.23 検察庁より証拠提出の要請 5.6 告発団、証拠を提出 9.7 検察庁、不起訴処分を発表(告発後1年8か月) 9.8 告発団、大阪地裁に付審判を請求 付審判請求…人権蹂躪事件につき検察官の 不起訴処分の可否の審査を裁判所に求める制度 11.12 大阪地裁担当・第十刑事部と初折衝 12.3 地裁へ上申書提出(付審判審理方式につき)	3.3 第4回公判(求釈明) 7.2 第5回公判(被告人意見陳述) 7.14 第6回公判(被告人意見陳述) 9.22 第7回公判(検事、黙禱に異議) 9.27 第8回公判(検事、黙禱時退廷) 裁判長「あえて禁止せず」 11.8 第9回公判(被告人意見陳述) 12.3 第10回公判(被告人意見陳述)
1972年	1.17 地裁第十刑事部「審理の当事者公開」を示す 当事者公開…付審判の請求人の閲覧謄写、新証拠 の申請、審理への立会い・尋問を認める審理方式 1.22 地裁と折衝 1.26 全捜査記録の謄写を開始 4.22 地裁と折衝 5.2 審理期日決定(5/26・29、6/7・21・29) 5.6 証人尋問決定①K警察官、②O医師、③松木医師 5.23 大阪府警、担当裁判官の忌避申立て 第三刑事部に継続(他事件担当の第七刑事部にも) 5.26 第1回審理中止 5.30 地裁へ請求人意見書を提出 6.3 地裁へ意見補充書を提出	3.28 第11回公判 (検事、黙禱完了まで入廷拒否)

年	告 発 付 審 判	11.13 闘争裁判
1972年	<p>6.5 地裁第3刑事部、忌避申立てを却下</p> <p>6.8 大阪府警、高裁に即時抗告を申立て</p> <p>6.14 高裁へ請求人意見書を提出</p> <p>6.22 高裁へ意見補充書を提出</p> <p>7.3 大阪弁護士会は付審判請求審理方式の当事者公開は当然との見解を発表</p> <p>7.17 大阪高裁即時抗告を棄却</p> <p>7.24 大阪府警、特別抗告を申立て</p> <p>8.31 最高裁へ請求人意見書を提出</p> <p>11.16 最高裁第1小法廷、忌避申立てを棄却</p>	<p>6.6 第12回公判 (被告人意見陳述・弁護人意見陳述) 被告、黙祷中止を決断。</p> <p>7.13 第13回公判(検察官意見陳述)</p> <p>9.7 第14回公判(検察請求証拠調べ)</p> <p>11.2 第15回公判(検察請求証拠調べ)</p> <p>12.5 第16回公判(検察請求証拠調べ)</p>
1973年	<p>2.10 大阪地裁第十刑事部裁判長転任</p> <p>3.2 地裁と折衝(審理方式)</p> <p>4.20 地裁と折衝(審理期日決定) 6/29、7/6</p> <p>4.23 大阪地裁第十刑事部左陪席裁判長転任</p> <p>5.4 尋問事項書提出</p> <p>5.9 上申書提出</p> <p>6.4 証拠物検証</p> <p>6.18 地裁と折衝</p> <p>6.23 大阪府警、審理方式に関し担当部に異議を申立て</p> <p>6.27 第1回審理証人警察官k不出廷を連絡、地裁と折衝</p> <p>6.29 第1回審理中止(証人k警察官不出廷)</p> <p>7.5 第2回審理証人0警察医不出廷を連絡</p> <p>7.6 第2回審理中止(証人0警察医不出廷)</p> <p>7.13 地裁第10刑事部、異議申立てを却下</p> <p>7.18 大阪府警、最高裁へ特別抗告を申立て</p> <p>9.12 第2回証拠物検証</p>	<p>1.17 第17回公判(検察請求証拠調べ)</p> <p>2.16 第18回公判(検察請求証拠調べ)</p> <p>4.25 第19回公判(弁護側請求証拠調べ)</p> <p>6.25 第20回公判(弁護側請求証拠調べ)</p> <p>7.18 第21回公判(弁護側請求証拠調べ)</p> <p>9.7 第22回公判(弁護側請求証拠調べ)</p> <p>10.12 第23回公判(弁護側請求証拠調べ)</p> <p>11.7 第24回公判(弁護側請求証拠調べ) 証人荒木幸男、突如出廷拒否</p>

年	告 発 付 審 判	11.13闘争裁判
1973年		11.30 第25回公判(弁護側請求証拠調べ) 証人荒木幸男、証言を拒否
1974年	<p>3.13 最高裁第3小法廷、異議申立てを棄却 (審理方式には判断示さず)</p> <p>6.14 第1回審理実施(証人k警察官・0警察医) 請求人立会・尋問による「当事者公開」付審判が実現、 弁護士でない請求人も立会</p> <p>7.10 第2回審理中止(証人松木医師都合)</p> <p>9.10 第2回審理実施(証人松木医師)</p> <p>9.14 上申書提出</p> <p>12.17 第3回審理実施(松倉豊治)</p>	<p>1.31 第26回公判(弁護側請求証拠調べ) 証人荒木幸男、証言</p> <p>2.22 第27回公判(被告人質問)</p> <p>3.12 第28回公判(論告求刑) 凶器準備結集、凶器準備集合、凶器 準備結集幫助、公務執行妨害 懲役3年1名、2年6月2名、2年14名、 1年6月3名、1年4名</p> <p>4.4 第29回公判(最終弁論)</p> <p>5.29 第30回公判(判決) 懲役2年1名、1年6月2名、1年12名 8月4名、不明5名 (全員執行猶予2~3年)</p>
1975年	<p>1.31 上申書提出</p> <p>3.18 第4回審理実施(松倉豊治)</p> <p>4.8 地裁と折衝</p> <p>6.13 第5回審理中止(地裁、松倉鑑定再鑑定を依頼)</p> <p>10.15 地裁と折衝</p>	
1976年	<p>1.26 第5回審理実施</p> <p>9.14 大阪地裁、付審判棄却決定</p> <p>10.1 告発団、大阪高裁に抗告申立て</p> <p>10.20 大阪高裁、抗告棄却決定(時効：1976年12月)</p>	

機動隊の暴行を否定

大阪地検「証拠も嫌疑も不十分」

大阪府北区、扇町公園の四十四年にわたる歴史が閉ざされた。機動隊と衝突、頭を強打して死んだ岡山大学生糟谷孝幸君(当時二十二)が加古川市米田町の赤松に葬られ、九十一人の赤松青年文化人らが、大阪府警の警官三人を特別公務員横暴罪で大阪地検に起訴したが、同地検は、七日、三人を一纏めに「不十分」で不起訴処分にする事を決めた。

二警官を不起訴

告発側 付審判請求へ



故糟谷孝幸君

機動隊は、警官との衝突による学生への死傷事件としては関西で初めて、全国で四人目の犠牲者。機動隊は「機動隊のリンチ」などと非難されているが、この種の事件の前例通り、機動隊の警官は毎大衆をばねたがたに強打に及んだ。この打撃は、警官の腕を傷つけた。大阪地検は、機動隊の警官は、この打撃を「必要最小限」にとどめた。

大阪府警の警官三人は、在りし時、機動隊の警官らと共に、扇町公園に集った赤松青年文化人らに、機動隊の警官三人を特別公務員横暴罪で大阪地検に起訴したが、同地検は、七日、三人を一纏めに「不十分」で不起訴処分にする事を決めた。

大阪府警の警官三人は、在りし時、機動隊の警官らと共に、扇町公園に集った赤松青年文化人らに、機動隊の警官三人を特別公務員横暴罪で大阪地検に起訴したが、同地検は、七日、三人を一纏めに「不十分」で不起訴処分にする事を決めた。

大阪府警の警官三人は、在りし時、機動隊の警官らと共に、扇町公園に集った赤松青年文化人らに、機動隊の警官三人を特別公務員横暴罪で大阪地検に起訴したが、同地検は、七日、三人を一纏めに「不十分」で不起訴処分にする事を決めた。

大阪府警の警官三人は、在りし時、機動隊の警官らと共に、扇町公園に集った赤松青年文化人らに、機動隊の警官三人を特別公務員横暴罪で大阪地検に起訴したが、同地検は、七日、三人を一纏めに「不十分」で不起訴処分にする事を決めた。

大阪府警の警官三人は、在りし時、機動隊の警官らと共に、扇町公園に集った赤松青年文化人らに、機動隊の警官三人を特別公務員横暴罪で大阪地検に起訴したが、同地検は、七日、三人を一纏めに「不十分」で不起訴処分にする事を決めた。

真相をヤミに隠る

加古川市米田町の赤松 赤松青年文化人会館で、機動隊の警官三人を特別公務員横暴罪で大阪地検に起訴したが、同地検は、七日、三人を一纏めに「不十分」で不起訴処分にする事を決めた。

加古川市米田町の赤松 赤松青年文化人会館で、機動隊の警官三人を特別公務員横暴罪で大阪地検に起訴したが、同地検は、七日、三人を一纏めに「不十分」で不起訴処分にする事を決めた。

11・13デモで重傷の

岡大生死ぬ



穂谷君

頭部に鈍器の傷

意識を失ったまま

地検も捜査

13日午後、大阪府東淀川区の岡大生が、大阪府警の暴徒グループが火炎びんを投げつけて暴徒と衝突、五人が重傷を負った。頭部に鈍器の傷を負った岡大生が、十四日午後九時、大阪府北区津田町六、行岡外科病院で死亡した。警察は十五日、大阪府警捜査第一課に捜査を依頼された。

「警棒だ」「鉄パイプだ」



岡大生が倒れた現場

正午過ぎ、暴徒グループが火炎びんを投げつけて暴徒と衝突、五人が重傷を負った。頭部に鈍器の傷を負った岡大生が、十四日午後九時、大阪府北区津田町六、行岡外科病院で死亡した。警察は十五日、大阪府警捜査第一課に捜査を依頼された。

去るその夜、正午過ぎに、大阪府警の暴徒グループが火炎びんを投げつけて暴徒と衝突、五人が重傷を負った。頭部に鈍器の傷を負った岡大生が、十四日午後九時、大阪府北区津田町六、行岡外科病院で死亡した。警察は十五日、大阪府警捜査第一課に捜査を依頼された。

おとなしい子が「おとなしい子が」

「おとなしい子が」

死んだのは岡大生ではない、岡大生は重傷を負った。頭部に鈍器の傷を負った岡大生が、十四日午後九時、大阪府北区津田町六、行岡外科病院で死亡した。警察は十五日、大阪府警捜査第一課に捜査を依頼された。

1969年11月15日
毎日新聞

傷害致死で徹底的に糾明へ
大阪府警本部長
岡大生が死亡したのは、十一月十三日午後九時、大阪府北区津田町六、行岡外科病院で死亡した。警察は十五日、大阪府警捜査第一課に捜査を依頼された。

「逮捕者の扱い 軽々しすぎる」
救済センター
岡大生が死亡したのは、十一月十三日午後九時、大阪府北区津田町六、行岡外科病院で死亡した。警察は十五日、大阪府警捜査第一課に捜査を依頼された。

糟谷本の概要案

敬称略

タイトル：「○○○○○○○○○○○○○○○ - ○○○○○○○○○○○○○○○○」

参考：高橋和巳『明日への葬列』（1970年）

10・8山崎博昭プロジェクト『かつて10・8羽田闘争があった』（2017）

※正式には原稿が集まった段階で決める

版型： A5版 500頁を超えない程度を想定

定価： 2,000円

発行部数： 1,000冊（基金に協力していただいた人には贈呈する）、図書館等にも寄贈？

出版社： 社会評論社（代表：松田健二、岡山大OB）

発行： 2020年11月（1969年から51年目）完成後に、出版記念の会を

予定： 年内に執筆依頼（字数、締め切り、プロフィール）執筆依頼文の作成と送付

2020年6月原稿締め切り → 編集、著者校正 9月入稿

編集体制 基本的に世話人・事務局で具体化し、必要に応じて協力をお願いする

原稿の依頼・収集・編集レイアウト・筆者校正・再校正など基本、自力で行う

配本に必要な諸手続きや費用・販売など、社会評論社にアドバイスをいただく

編集責任者：内藤秀之

内容骨子

- 1 はじめに——糟谷孝幸とともに生きた半世紀（内藤秀之）
- 2 1969年から半世紀、この先へ／69年のたたかひの歴史的な意味とこれから若い世代へのメッセージ（3,000字を基本にオーバーもありうる）
- 3 糟谷孝幸とともにたたかった日々／69年のたたかひに参加した人びとの回想（1,000～2,000字）
 - * 69年11.13闘争をともにたたかった人
 - * 69年の闘争をたたかった人／いろいろな党派、無党派の活動家
- 4 私にとっての糟谷孝幸さん／70年代以降の運動に参加してきた人にとって糟谷孝幸とは（800～1,200字）
- 5 裁判、付審判審理の記録／佐藤医師へのインタビュー
11.13闘争被告の意見陳述は、全部掲載すると膨大な量になるため、3～4の代表的なものを掲載し、残りはHPにアップする形に
- 6 冊子や資料、機関紙などからの転載など…
- 7 当時の報道資料…掲載分の選択の検討が必要
- 8 あとがき

※なお、既存論文等からの転載なども検討

糟谷孝幸君に関する本への原稿執筆のお願い

呼びかけ人・賛同人のみなさま。「糟谷孝幸プロジェクト」にご協力いただき、心から感謝いたします。おかげさまで、200名を超える方々が呼びかけ人・賛同人になっていただいています。

このプロジェクトの大きな柱として、糟谷君に関する本の出版を企画しています。糟谷君は、「ぜひ11・13に何か佐藤訪米阻止に向けての起爆剤が必要なのだ。犠牲になれというのか。犠牲ではないのだ。それが僕が人間として生きることが可能な唯一の道なのだ。……」という言葉最後の日記に残して、大阪の地に赴きました。ごく普通の若者であった糟谷君が全共闘運動に加わった後、1969年秋の街頭実力闘争への参加を前にして自問自答を繰り返し、逮捕を覚悟して決断し、行動に身を投じた姿は、あの時代の若者の生き方の象徴だったと思います。

本の出版によって、糟谷君のたたかいと生き方を忘れることなく人びとの記憶にとどめると同時に、この時代のたたかいの意味を問い直し、経験と教訓を若い世代に伝えて、これからの運動に少しでも役立つことができればよいと考えています。本の骨格は、別紙をお読みください。

つきましては、「糟谷孝幸とともにたたかった日々／69年のたたかいに参加した人びとの回想」の部、ないしは「私にとっての糟谷孝幸さん／70年代以降の運動に参加してきた人たちにとって糟谷孝幸とは」の部に、原稿を執筆して下さるようお願いする次第です。糟谷君と同じたたかいの場にいた方はむろんのこと、違った場で1969年のたたかいを共に経験された方には、例えばどのような思いでたたかいに加わったのか、糟谷君の死をどう受け止めたのかといったことをお書きくださればと思います。また、70年代以降に運動に参加された方には、例えばご自身がどのような運動に参加されたのか、そのなかで糟谷君のことがどのように語られていたのかといったことをお書きいただけないでしょうか。もちろん、こうした例示に縛られずに、自由にお書きいただいても構いません。

いろいろお忙しいとは思いますが、どうかよろしくお願いいたします。

執筆要項

*原稿締め切り：2020年6月末日

*字数：1000～2000字（「糟谷孝幸とともにたたかった日々」の部）
800～1200字（「私にとっての糟谷孝幸さん」の部）

*タイトル：ご自分でお付けください

*プロフィール：簡単に記してください（約200字）

*原稿送付先：郵送の場合

〒700-0971 岡山市野田5-8-11 ほっと企画気付 糟谷プロジェクト
メールの場合、下記アドレスまでお願いします。

恐れ入りますが、原稿執筆の諾否を以下までご一報くだされば幸いです。

山田雅美：m-yamada@pol.oninet.ne.jp

白川真澄：JZI03162@nifty.ne.jp

2019年12月

「糟谷プロジェクト」事務局

揚田 崇徳	広島県	賛同人	農耕民
秋月 康夫	東京都	賛同人	
朝日健太郎	東京都	賛同人	先駆社
糟谷孝幸、懐かしい名前ですね。日比谷野音の人民葬を思い出します。			
天野 恵一	東京都	呼びかけ人	反天皇制運動連絡会
荒木 雅弘	大阪府	呼びかけ人	告発を推進する会事務局
飯田 玲子	神奈川県	賛同人	藤沢九条の会
井奥 雅樹	兵庫県	賛同人	高砂市議・岡山大 OB
五十嵐裕幸	東京都	呼びかけ人	1969.11.13 闘争被告

平井さん(戸田徹)と50年を迎えたかったなあ…

五十嵐政晴	新潟市	賛同人	日本共産党荻川支部
戦争とは悪であり、国家の行う犯罪行為だ！			

五十嵐 守	京都市	呼びかけ人	
生島 猛	大阪府	賛同人	
石田 俊幸	大阪府	賛同人	大阪全労協顧問
石田 信行	東京都	呼びかけ人	小農・69 築地被告
石田 米子	岡山市	賛同人	歴史研究者
石田 英雄	福島県	賛同人	

できることはあまりありませんが、志を同じくした者のひとりとして賛同します。

石塚 健	兵庫県	賛同人	元教員
市場 尚文	岡山市	賛同人	岡山大 OB・医師
伊東 利一	大阪府	賛同人	
井上 康	京都市	賛同人	
猪股 美恵	栃木県	賛同人	元川崎市議
今井 明	川崎市	呼びかけ人	
岩木 要	川崎市	呼びかけ人	元プロ学同委員長
岩田 吾郎	大阪市	賛同人	WEB リベラシオン社

1969年11月13日、扇町公園にいました。当時19歳、「浪人生」でしたが、なぜか大阪教育大学全共闘(銀ヘル)の部隊にいました。北大阪制圧闘争として、中電マセンストも含めて「プロ学同」は頑張っていた記憶があります。公園の出口から火炎瓶が投げられ、プロ学同等の部隊は機動隊に突入しました。確か、まだ「緑ヘル」であったと思います。

この関係で、後続の私たち等、全共闘、反戦の部隊は待たされました。前月の10.21反戦デーから大阪の闘いのピークでした。その後は、東京の「11月決戦」です。

「新左翼」44号を添付します。プロジェクトの案内を、下記WEBにアップしました。

<http://0a2b3c.sakura.ne.jp/index.html>

岩谷 哲夫	大阪府	賛同人	
上原 敦男	香川県	賛同人	
浦木 靖	鳥取県	呼びかけ人	湯梨浜町議
海老坂 武	兵庫県	賛同人	フランス文学

権力犯罪を忘れないために

大石 一昭	岡山市	賛同人	弁護士・岡山大 OB
扇谷 昭	大阪府	賛同人	岡山大・同クラス
大久保和子	東京都	賛同人	
大杉美千子	京都市	賛同人	

太田 敏之 岡山市 賛同人 元管制塔被告団
大谷 行雄 東京都 賛同人 翻訳家・ビジネスコーディネーター (フリーランス)

10・8山崎博昭プロジェクト事務局 (東京、国際部)

当時は高校生でしたが、社会学系高校生として、第一次第二次ともに羽田闘争を闘いました。
現在、10・8山崎博昭プロジェクト事務局でベトナムや米国などでの国際的な事案を担当して
います。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

大津 啓 福岡市 賛同人
大盛 力 東京都 賛同人
大森 万蔵 奈良県 賛同人
岡本 浩 岡山市 賛同人 岡山大学 OB

憲法改悪がされようとしている現在、69年の闘いに学ぶことが必要ではないでしょうか。

奥津 亘 岡山市 賛同人 弁護士
鬼木のぞみ 岡山市 賛同人 岡山市議
笠原 直子 千葉県 賛同人 テオリア会員

不当に人が殺されるのは許せません。特に権力による犯罪は罪深いと思います。
記録を残すことはとても大事なことです。

笠原 優 大阪府 賛同人 泉南生活協同組合 (オレンジコープ) 理事長
あの日扇町公園にいました。遅れてついたのもう隊列はデモに移り出していました。その時、
共労党の誰かが死んだらしいと聞いて「ホンマカ！」と応えたのを覚えています。

片岡 卓三 京都府 賛同人
要 宏輝 大阪府 呼びかけ人 元連合大阪副会長
加納 洋一 岡山市 呼びかけ人 岡山大同クラス
金子 絢 神奈川県 賛同人

2019年1月文京シビックセンターでの内藤さん講演の会合(研究所テオリア主催)の時より、ずつ
と心に留めていました。山崎博昭プロジェクトの賛同人です。

鎌田 慧 東京都 賛同人 ルポライター
運動での死者は顕彰しないといけないと思います。
なにもできませんので、賛同人になります。

嘉山 将夫 埼玉県 賛同人 全国一般埼京ユニオン委員長
荻野 誠志 大阪市 賛同人 公園管理運営士

1970年代~1980年代にかけ、糟谷孝幸さんが所属していたPSL指導下の高校生組織PHFと、
その後継組織に身を置いた者としてプロジェクトの趣旨に共感しつつ成功を祈念します。

川嶋 澄夫 大阪府 賛同人 元広大全共闘議長
菅 孝行 埼玉県 呼びかけ人 文筆業
喜多 浩子 東京都 賛同人

糟谷君の闘いは、忘れてはならないものとして、いつも心の中にあります。

北川靖一郎 大阪府 呼びかけ人
岸本真須美 岡山市 賛同人 ふえみん岡山
北沢 啓 横浜市 賛同人
北村 弦 京都府 賛同人
北本 修二 大阪市 賛同人 大阪市・弁護士・10.8山崎プロジェクト
木下 達雄 兵庫県 賛同人

1969.11.13扇町公園での集会・デモに参加していました。革命前夜といっちは大げさですが、
異様な盛り上がりと雰囲気だった記憶があります。樺さんや山崎さんとともに、決して忘れては
ならないのが糟谷さんです。

木村 晋治 東京都 賛同人
木村 松夫 東京都 賛同人 地域活動家

久下 各 京都府 賛同人 元国鉄労働組合員
 草刈 雅夫 岡山県 賛同人 元私塾経営現農業&株式トレーダー
 国松 春紀 横浜市 賛同人 個人誌「山猫通信・宮ヶ谷版」発行人

ぜひ記録集を刊行して下さい。ささやかですがカンパします。

国富 建治 東京都 呼びかけ人 新時代社

私は、当時大学2年生でしたが、1969年11月を前にした1969年10.21の闘いで逮捕・起訴され、拘留所の中で糟谷さんが虐殺されたことを知りました。

「全共闘」運動としての学生運動の行き詰まりの局面で、私自身も思いつめた気分で街頭闘争に突入していったことを記憶しています。

久保田 潤 静岡市 賛同人 静共闘

黒沢 真一 愛知県 賛同人

栗原 彬 東京都 賛同人 政治社会学者

樺美智子さん、山崎博昭さん、糟谷孝幸さんを記憶し、繰り返し想起していきます。

栗間 修平 島根県 賛同人

私もかつての「69戦士」の1人でした。呼びかけ人・賛同人の中に、共に活動した友人の名前が何人もあり、また知った名前もの何人かあります。私にどれだけのことができるかわかりませんが、賛同人に名を連ねていただきたいと思います。

黒田 恵 東京都 賛同人

法治国家としてあるまじき事です。暴力による封殺を許してはいけません。

黒部 俊介 岡山県 呼びかけ人 記録映像作家

桑野 博 福岡県 賛同人

日記に記された彼の決断は、私の心の中で光を發し続けています。

古賀 滋 大阪府 賛同人 昔・反帝高評（労対派）

児玉 正人 京都府 呼びかけ人

小寺 啓章 兵庫県 賛同人 元図書館員

過日、大阪の山崎君の会で、この用紙とご挨拶をお聞きしました。1969年の糟谷君のことを思い出しました。

小山 高澄 賛同人

糟谷君の名誉がまだ回復されてないとは驚きです。

小山 弘 京都市 賛同人

最首 悟 横浜市 賛同人

齋藤 修 岡山市 賛同人 岡山大同期生

齋藤 武光 東京都 賛同人 エントロピー学会世話人

酒井 一 尼崎市 賛同人 尼崎市議会議員

佐藤 耕造 福岡県 呼びかけ人 社会福祉法人徳和会理事長・告発を推進する会呼びかけ人

坂元 康二 岡山市 賛同人 岡山大OB・パステル

佐々木幹郎 東京都 賛同人 詩人・山崎博昭プロジェクト発起人

佐藤 茂伸 神奈川県 賛同人 自然食品店 相談役

里見 柊二 京都市 呼びかけ人

重信 房子 東京都 賛同人 東日本成人矯正医療センター・元日本赤軍

「1969年11月13日佐藤訪米阻止闘争の抗議デモの中で、機動隊による警棒の乱打で虐殺された糟谷孝幸さんの闘いと追悼を歴史に刻むために始まった「糟谷孝幸プロジェクト」に敬意を表し連帯します。あの時、私は丁度11月11日に初めて逮捕され、東京の上野菊屋橋署に勾留されていました。9月25日に北区滝野川会館で行われた赤軍派政治集会も無届が理由でした。屋内の集会は、当時は届出なしが通常のこと、それだけで公安条例違反の初逮捕は、論議を巻き起こしました。しかも、「届出は不要」という会館側の行政指導を受けて、その通りにしたにすぎず、抗議し2泊3日で釈放されましたが、その後すぐ「別件逮捕」で「4・28闘争の凶器

準備幫助罪」で拘留されていました。当局は「大菩薩峠事件」を調べたいために、関連のない事件を持ち出したのです。この時、丁度東京でも激しく佐藤訪米阻止闘争が続き、毎日女学生の逮捕が増え、菊屋橋署も満員になりました。私の後から逮捕されて入ってきた東京女子大学の学生が「大阪では、昨日岡山大の学生が、10・8の山崎君みたいに虐殺された！」と教えてくれました。命がけでしかデモも出来ない時代になっていると、みんなで話し合ったのを思い返しています。そして、11月17日佐藤訪米の朝、私はみんなに呼びかけて、抗議のシュプレヒコールを訴えました。虐殺された岡山大の学生と、訪米に抗議の意志を示したかったのです。「シュプレヒコール！佐藤訪米を許さないぞ！」インターを歌い、口惜しくて泣いている人もいました。糟谷さんのこのプロジェクトの呼びかけと、当時の「新左翼」紙を読んで、あの1969年の50年前、獄中でのスクラムと抗議のシュプレヒコールとインターナショナルの歌声を鮮やかに蘇らせています。プロジェクトの成功を祈ります」8月21日

重松	朋宏	東京都	賛同人	国立市市議会議員
繁山	達郎	東京都	呼びかけ人	研究所テオリア
設楽	清嗣	東京都	呼びかけ人	東京管理職ユニオン サポーターズクラブ代表

69秋の闘争こそは私にとって栄光ある闘争であり、糟谷孝幸君は私達の誇りです。

白川	真澄	川崎市	呼びかけ人	ピープルズ・プラン研究所・元共労党書記長
新開	純也	京都府	賛同人	
菅澤	邦明	兵庫県	呼びかけ人	西宮公会堂
杉岡	康次郎	兵庫県	呼びかけ人	
杉原	浩司	東京都	賛同人	

社会運動の継承のための貴重な記録となることを願っています。

高木	照雄	茨城県	賛同人	
高橋	幸子	滋賀県	賛同人	「はなかみ通信」編集人
高橋	登	大阪府	賛同人	泉大津市議
高原	浩之	東京都	賛同人	元共産主義者同盟(1969年当時は分派して赤軍派)

糟谷君とは面識はありませんが、ブンドの共闘関係が共労党を含む八派に発展したのは、68年10・21前後でした。以後、69年1月東大安田と4・28の闘争まで、私もブンドの一員として深くかかわりました。残念ながら、その後は赤軍派として分派し、69年11・13当時は大衆闘争から離れていました。

その後、赤軍派は破綻し(反省を超え政治的にも「後悔と贖罪」)、新左翼各派も分裂し解体または後退しました。しかし、あれから約50年、闘争に参加した多くの人々が、人民闘争の多種多様な分野で大衆と結合して闘争を継続しています。「偉大な努力」です。それが人民闘争の次の大きな怒涛を生み出すでしょう。その中に、糟谷君の精神を受け継いでいく今回のプロジェクトに賛同します。

武市	常雄	大阪市	賛同人	
----	----	-----	-----	--

当時は洛北反戦青年委員会で活動しており、あの日は現場で仲間の女性会社員も救急車で病院に運ばれました。だから、糟谷さんのことはずっと気になっていました。ああ、やっと追悼できるんですね。みなさま、お世話になります。ありがとうございます。

龍本	秀隆	大阪府	賛同人	住職
田窪	篤己	兵庫県	賛同人	
高村	幸子	岡山市	賛同人	ふえみん岡山
田中	一昭	川崎市	呼びかけ人	地域精神保健福祉
田中	幸也	大阪府	呼びかけ人	1969.11.13 闘争被告
玉井	均	広島県	賛同人	

69世代より遅れた青年が高校入学(1970年)学生服での反戦デモ・日本原の現闘小屋のゲバラの肖像画にひどくショックを受け、時代に巻き込まれていった。私も時代の転換点にいたのです。人生の転換点でした。

辻 惠 東京都 呼びかけ人 弁護士・10.8山崎博昭プロジェクト事務局長
当時の息吹を現在に蘇らせましょう。

月野和陽右 横浜市 呼びかけ人 元シェル石油労働組合、呼びかけ人
土屋 勝 東京都 賛同人 岡山大OB
出口 史郎 大阪府 賛同人 東大阪三里塚闘争連帯する会
寺田 道男 京都府 賛同人 反戦・反貧困・反差別共同行動 in 京都事務局長
鳥井 幸雄 京都市 賛同人

正直忘れていましたが、風化せず、持続することを願っています。

内藤 秀之 岡山県 呼びかけ人 日本原農民
仲尾 宏 滋賀県 賛同人 京都造形芸大客員教授

50周年集会のご成功を祈ります。

中川 憲一 東京都 呼びかけ人 元管制塔被告団

糟谷同志は私にとって特別の人です。3・26空港包囲・突入・占拠の闘いで逮捕された私は、その後23日間の完黙闘争を強いられました。

「命を賭けた闘いは命を賭けて守る」

毎朝、朝食後1番に留置場の独房から引き出され、1番後に(午後11時のこともあった)戻された取調べの前、私は糟谷同志(他2名)に恥じない完黙の闘いを誓いました。毎朝独房で目覚めると同時に誓いました。そして糟谷同志のおかげで、起訴2・3日前に身元がバレても完黙を貫徹することが出来ました。

あれから41年。あの時の気持ちを忘れる事なく、糟谷同志に恥じない生き方を続けたいと思っています。

中川 正 岡山県 賛同人 新聞配達夫
中川 瑞代 東京都 賛同人 弁護士
中北龍太郎 大阪市 賛同人 弁護士
中澤 透 東京都 賛同人 大震災義援 ウシトラ旅団
永野真理子 大阪市 賛同人

私は糟谷さんと同世代です。今も扇町公園からのデモで行岡病院の前を通る時いつも彼の名を思い出します。生きていらしたらここに居たでしょうね。糟谷さんが奪われた五十年を、悔しく痛ましく思います。

中山 宏 大阪府 賛同人 介護労働者

69.11.13 私は教組青年部の一員として扇町集会に参加していました。パイプ爆弾等の情報もあったせいか、府警機動隊も幾重もの荷物チェックを受け会場に入った記憶があります。公園柵越えに学生と機動隊が激しく衝突する光景も目にしました。糟谷さんのことは、岡大を卒業した人に会うと問いかけたりしたこともありました。11月10日には加古川へ行きたい。

西川 哲 京都市 賛同人 岡山大OB、元大学教員
西村 光子 川崎市 賛同人 こども食堂
西村 隆平 京都府 賛同人
丹羽 通晴 大阪市 賛同人 関西先駆社
橋野 高明 大阪市 呼びかけ人

日本基督教団牧師・元同志社大人文学研究所研究員

1969年11月13日、あの日、私も間違いなくあの扇町公園に居りました。機動隊の規制攻撃が異常に厳しかったことだけは、よく覚えています。糟谷孝幸さんに撃ち降ろされた警棒は私(私たち)にも振り向けられ、もしかすると虐殺された糟谷さんは、私(私たち)であったかもしれませんが、あの日「殺された」のは、私(私たち)でもあったのです。ずいぶん昔の事のようにですが、私は決して忘れません。

橋本 利昭 兵庫県 賛同人 革命的共産主義者同盟再建協議会

今回、内藤秀之さんの文章で1969年11月13日の糟谷さんの闘いを初めて詳しく知りました。

壮にして勇です。私は 69 年 10 月丁度 1 月ほど前、東京で爆取で逮捕され獄中にいました。69 年安保・沖縄闘争にわれわれがかけたものを再生的に生かすことを願っています。

橋本	信彦	埼玉県	賛同人	岡山大 OB
花崎	皋平	北海道	呼びかけ人	哲学者
濱田	亮典	長崎県	賛同人	佐世保市民
林	敏秋	京都府	賛同人	
林	真樹	兵庫県	賛同人	
平井	玄		賛同人	非正規思想家

1969 年 11 月の死者という糟谷さんの名は今もよく覚えています。私は「決戦」がどうも苦手で、高校闘争に腐心する中、殺人の報道に頭を殴られた思いでした。

広畑	貞昭	尼崎市	賛同人	あまがさき共生と自治 21 代表
藤井	悦子	京都府	賛同人	アジェンダプロジェクト
藤井	正道	大阪府	賛同人	
二木	洋子	大阪府	賛同人	
船橋	邦子	千葉県	賛同人	北京 JAC・女性差別撤廃運動
星川	洋史	大阪市	賛同人	関西新時代社
干場	革治	東京都	賛同人	東大三鷹クラブ (東大三鷹寮同窓会世話人) (元 ML)

当時 ML 派の活動家で東大三鷹寮の寮委員長もしていました。69 年 11 月 15 日蒲田で 7 回目の逮捕、足掛け 3 年中野刑務所に未決勾留、一審では実刑判決でした。自分が糟谷君でもおかしくなかった。

堀	文夫	大阪府	賛同人	東大阪三里塚闘争連帯する会
前田	和男	東京都	呼びかけ人	続全共闘白書編纂委員会事務局

あれから半世紀。連帯連携の輪が広がることを祈っています。

前原	英文	兵庫県	賛同人	元 69 年 4.28 沖縄闘争統一被告団
----	----	-----	-----	-----------------------

69 年 4 月 28 日から 12 月末まで獄中 (小菅) にいましたので、中から外の闘いの様子を聞いていました。糟谷さんとは直接の面識はなかったのですが、内藤さんが扇町に参加されていたということを知り、つながりを知りました。そういった事情を知らず 25 年以上前にタイとアメリカの大学教授の通訳兼運転手として、その人々の日本の農業調査で内藤さん宅を訪問しました。帰りにもう一軒の有機農業家 Y さん宅に二人の教授を残して、私だけ帰阪しました。その途中兵庫県と岡山県の県境で追突事故を起こし、赤穂市民病院で 1 カ月入院しました。(小腸を 20cm 切除) このことについては周りの人はほとんど知られてないと思います。60 年代から 70 年代を共に闘い犠牲となった人々 (山崎さんや糟谷さん、東山さん等多くの人々) を追悼していくことは私たちの使命だと思います。

増田	敬一	埼玉県	賛同人	
松井	隆志	東京都	賛同人	武蔵大学教員、ピープルズ・プラン研究所
松岡	勲	大阪府	賛同人	
松岡	利康	兵庫県	賛同人	鹿砦社
松島	正雄	横浜市	賛同人	シルバー人材センター磯子事務所
松田	健二	東京都	呼びかけ人	社会評論社代表
松平	直彦		賛同人	当時赤軍派・大菩薩事件で逮捕中
松永	了二	大阪府	賛同人	人民新聞社

当日、現場にいました。

松野	哲二	東京都	賛同人	元現代民主主義研究会・府中緊急派遣村共同代表
松本	宣崇	岡山市	賛同人	岡山大 OB
松谷	清	静岡市	呼びかけ人	静岡市議
真鍋	裕子	東京都	賛同人	東京大学東洋文化研究所

糟谷プロジェクトにつきまして、賛同人として名前を入れていただければと思います。

いただいた ML にあるアドレスに自分で送付しようかとも考えましたが、私自身は糟谷氏のことを今回初めて知ったばかりであり、語るべき言葉を持ち合わせず、一方ではメール文に記された日記の言葉が私はずっと見てきた韓国民主化運動の烈士たちのそれとあまりに似ていること、表にもコメントしたとおり、11月13日という日付が70年11月13日に焼身自殺をとげ、韓国民主化運動の起点となった全泰壹烈士を彷彿させるものでもあり、それを糸口になにかお力になれるのではないかと考えましたが、それを書き始めると収拾がつかなくなりそうなので、大谷様よりよろしく申し伝えていただければと思います。20年11月に追悼文集をというのは、韓国では全泰壹の50周年にあたる時で、日韓(死者)連帯?の中でなんらかの理念付けができないものかと考えたりしております。

どうぞよろしく願いいたします。

水谷 (楨) けい子 東京都 賛同人 元全国反戦救済事務局

糟谷孝幸君は、強大な権力にたいし、敢然として敵の眼前に立ちふさがり、死を賭してまで闘い抜いた人に他なりません。帝国主義本国の人民として、侵略を二度と許さないという、人としての道を買ったのだと思います。そうした彼のたたかいを記録として残すことは、残された者の使命だと思います。彼が成そうとしたことを、歴史にしっかりと刻印できるからです。記憶は薄れ、不正確になり、そして必ず忘れ去られるからです。記録することが、糟谷君と、そしてたまたかう仲間の“途切れることのない闘い”を貫くことだと思います。今やらなければ、もうできない—私も本心からそう確信します。

水谷 保孝 東京都 賛同人 元革共同全国委員会

溝辺 節子 横浜市 呼びかけ人 ふえみん婦人民主クラブ

1969.12.14 糟谷孝幸君市民葬実行委員・婦人民主クラブ岡山中央支部(当時)

プロジェクトのお仲間に入れていただきありがとうございます。

50年の記憶をたどりながら、忘れていたことを詫言っています。

三橋 俊明 東京都 賛同人 文筆家・「日大闘争の記録—忘れざる日々」編集人
「10.8山崎博昭プロジェクト」発起人

日大闘争を記録する会で作ってきた冊子の9号を同封させていただきました。がんばって下さい。

光本 一郎 川崎市 賛同人 NPO職員・岡山大OB

光吉 準 岡山県 呼びかけ人 岡山大OB・岡山県鏡野町議

水戸喜世子 大阪府 呼びかけ人 元救援連絡センター事務局長・山崎プロジェクト

南 俊二 京都市 賛同人

宮部 彰 東京都 呼びかけ人 緑の党グリーンズジャパン運営委員

宮内 順治 兵庫県 呼びかけ人

三輪喜久治 大阪府 賛同人 東大阪三里塚闘争連帯する会

武藤 一羊 横浜市 呼びかけ人 ピープルズ・プラン研究所

元豊田 平 東京都 賛同人

森本 栄 岡山県 賛同人 元連合岡山会長

森本 浩文 大阪府 賛同人

八木 健彦 奈良市 賛同人

谷島 修一 東京都 賛同人 研究所テオリア

藪原 孝雄 群馬県 賛同人 研究所テオリア

山口研一郎 大阪府 賛同人 やまぐちクリニック院長・現代医療を考える会代表

糟谷さんのお名前は1969年当時お聞きしていたような気がしますが、直接の面識はありません。

北川さんからの再三のお誘いで賛同人を引きうけします。また本作成の段階には、私の当時(浪人生2年目)の体験をお寄せしたいと存じます。

山口 恒樹 大阪府 賛同人 緑の大阪

山口 幸夫 東京都 賛同人 原子力資料情報室・元「ただの市民が戦車を止める」会

こころざしとたたかいの記録を残すことは同時代を生きた者の責任だと思います。

山崎 建夫 大阪府 呼びかけ人 山崎博昭兄・山崎プロジェクト
私も同じ時扇町公園に居ました。抗議集会にも参加しました。
権力の凶刃に斃れた若者の遺志は次代に引き継がれねばならないと思います。

山崎 雅毅 沖縄県 賛同人 石垣島・アンパルの自然を守る会
山田 謙 大阪府 賛同人 東大阪三里塚闘争に連帯する会
山田 哲哉 東京都 賛同人 元共労党・山岳ガイド

1969年秋は全国中学生共闘会議の一員として佐藤訪米と闘いました。11.17の直前で糟谷さんが殺されたことに強いショックを受けました。今本当に戦争をする国が日本です。もう一度初心に帰ってガンバリマしよう。

山田 雅美 岡山市 呼びかけ人
山田 晏弘 京都市 賛同人

70年安保・大学闘争は、誰にも光が当たる平等な社会を目指す闘いでしたが、新しい社会像を示せず敗北しました。世界的に格差が拡大し続ける今日、糟谷君の無念を自分の無念とし、新しい社会のシステム・像を提起できる運動ができればと思っています。

山戸 貞夫 山口県 賛同人 祝島・反原発運動
山中 四郎 岡山市 呼びかけ人
山中 健史 東京都 賛同人 明大土曜会・山崎プロジェクト事務局

私は糟谷さんとは面識はありませんが、69年12月に東京の日比谷公園で行われた「糟谷君虐殺抗議集会」に参加しました。この日の様子は、私のブログに掲載しています。

1969年12月糟谷君虐殺抗議集会 <https://blogs.yahoo.co.jp/meidai1970/31769131.html>

また、10.8山崎博昭プロジェクトの事務局も担当しておりました。

そんなこともあり、このプロジェクトの賛同人になります。よろしくお願いします。

山中 幸男 東京都 呼びかけ人 現救援連絡センター事務局長・『救援』発行者
山崎プロジェクト

山本 義隆 東京都 賛同人 予備校講師・山崎プロジェクト

山本 久司 金沢市 呼びかけ人

山脇ひろし 埼玉県 賛同人 研究所テオリア

横山 茂彦 千葉県 賛同人 「情況」編集委員

吉岡 正教 岡山市 呼びかけ人

吉田 和雄 東京都 呼びかけ人 研究所テオリア

吉田 信吾 京都市 賛同人 ホームヘルパー

現代史の1側面として闘いの記録は残しておきたいです。

吉田 智弥 兵庫県 賛同人 枝葉通信発行人

当時、28歳の広告労働者でしたので、世代は少し違いますが、たまたま同じ現場にいましたので、「事件」のことは忘れません。

米澤 鐵志 京都府 呼びかけ人 被爆証言者

若槻 武行 川崎市 賛同人 岡山大OB

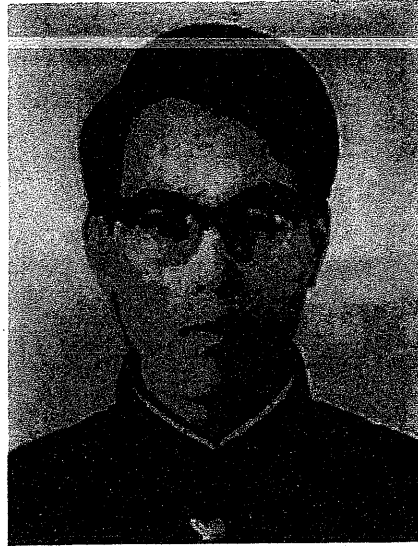
若林 勝 兵庫県 賛同人

脇 義重 福岡市 賛同人

同世代であり、共に佐藤訪米阻止を闘った。私の「生きる道」として糟谷君の遺志を共にする。

渡邊 充春 大阪市 賛同人 歯科医師

他85名(氏名非公表+郵便振込分)



糟谷孝幸（かすやたかゆき）

1948年8月8日兵庫県加古川市
生まれる。市立川西小学校、市立
宝殿中学校をへて、県立加古川東
高校へ。1968年岡山大学法文学部
に入学。岡山大学全共闘で活動。
1969年11月13日、佐藤訪米阻止
大阪闘争のデモで3機動隊員の暴
行を受け扇町公園南側路上で逮捕。
翌14日に死亡。享年21歳。

1969 糟谷孝幸君追悼 50周年プロジェクト

（略称：糟谷プロジェクト）

呼びかけ人代表

内藤 秀之

〒708-1321 岡山県勝田郡奈義町宮内124 080-1926-6983

事務局連絡先

〒700-0971 岡山市北区野田5丁目8-11 ほっと企画気付

山田 雅美

電話 086-242-5220 FAX 086-244-7724 携帯 090-9410-6488

E-mail:m-yamada@po1.oninet.ne.jp

1.13集会へのメッセージ

2020年1月13日の「糟谷孝幸君追悼50周年集会」の、呼びかけ人の一人を引き受けさせていただいているにもかかわらず、当日は出席できなくなったことを、集まれた皆様におわびいたします。

1月12日～14日は、沖縄辺野古新米軍基地建設反対の座り込み、及び『沖縄スパイ戦史』のその後を追って」の監督・三上智恵講演会を手伝う為沖縄県読谷村に出かけることになりました。沖縄で戦われた地上戦、その後の沖縄の歴史、現在の辺野古新米軍基地建設を考える場合、その大きな分岐点の一つが、1969年11月13日を軸に戦われた佐藤訪米阻止の闘いであったことは、2015年から辺野古の座り込みに加わらせていただいて強く感じさせられます。すべてが、そこに返って行くと言っても過言ではないくらい、重要だったのが1969年です。大きな重圧のもと、これ以上、決して新しい米軍基地は作らせないとする沖縄島の人たちの強い意志で、厳しい状況での、座り込みが続いています。島で生きる人たちの意思は県政、地方議会などの選挙などで示してきました。しかし、すべて踏みにじられてきました。踏みにじられる時に戻って行くのが1969年、佐藤訪米で日米が合意した「沖縄処分」です。

1969年11月13日は、関西救援連絡センターの関係者の一人として、扇町公園の周辺にいたにすぎません。その時の「闘い」についての詳細は、最近になって内藤秀之さんの報告で知ることになりました。「1969年大阪扇町闘争で虐殺された糟谷孝幸君を追悼する」（「1969年混沌と狂騒の時代」紙の爆弾2019年11月同増刊）。その時代を振り返ると、内藤秀之さんの報告する糟谷孝幸君の立ち位置で生きた人たちのことが思い起こされます。生きて生き抜くことなく、自ら命を絶った人たちのことが思い起こされます。

生き残って、唯一できたのは、そんな人たちを裏切らないことでした。

以下は、昨11月13日の墓参に集まれた方々に届けさせていただいた文章です。

2020年1月8日

菅澤 邦明

糟谷孝幸さんが、佐藤訪米阻止を闘って命を奪われて 50 年、
墓参に集まられた皆様

本日は、50 年の追悼墓参にご一緒させていただくはずでしたが、それが出来なくなってしまいました。

糟谷孝幸さんが命を奪われた 1969 年 11 月 13 日は、扇町公園のその周辺にいました。糟谷孝幸さんが命を奪われた後、関西救援連絡センターの関係者の一人として、この権力犯罪の事実を明らかとする働きに加わることになり、その方向を模索する中で、何度か加古川にお父さん、お母さんをお訪ねすることになりました。命を奪われた原因は、脳挫傷の様子などから、警棒による殴打であることは明らかでした。その事実と責任を明らかにするべく、ご家族による刑事告訴も検討されましたが、権力犯罪と闘う難しさから、お父さん、お母さんは断念されることになりました。もちろん、大切な我が子が志を持って闘いに立ち上がり、権力犯罪によって命を奪われた事実は、どんな意味でもご家族は了解も、許すこともできませんでしたが、断念は苦渋の選択でした。

その後、糟谷孝幸さんが葬られた称名寺を繰り返し訪ねることになりましたが、それも遠くなってしまいました。数年前、加古川駅で降りた機会に、称名寺を訪ねたところ、墓石にお父さんのお名前も刻まれていました。

そうして、50 年が経ってしまいました。50 年、生き残った人間として報告できることがあるとすれば、生き方として、糟谷孝幸さんやその時代を生きた人たちを裏切りはしなかったことです。

大言壮語するのではなく、消極的でしかありませんが、その時代を生きた人間としての、小さな志を決して疎かにしなかったし、裏切りはしなかったことだろうことです。小さな志を、小さな世界で貫くことが、糟谷孝幸さんや、その時代を生きた人たちへの礼儀としてきたことだけは、墓前に報告できるように思えます。

2019 年 11 月 13 日

菅澤邦明

■佐藤医師からのメッセージ

私と糟谷さんとの関わりは、「大阪でデモ中、機動隊と衝突した学生が病院へ担ぎこまれた、ついでには専門医のあなたに来てもらいたい」という友人の電話でした。脳神経外科の医師として、1969年11月14日朝6時頃行岡病院に行ったのが始まりです。

その後糟谷さんの死の真相を究明したいと、医師の立場で告発の運動に参加し告発付審判の審理にも弁護士以外の請求人として立ち会いました。

付審判審理で糟谷さんの遺体写真や鑑定書を見ましたが、致命傷である複数の頭部骨折は警察官の警棒による殴打が原因としか考えられない事を再確認しました。頭蓋骨を砕くほどの打撃が糟谷さんに加えられ死に至ったのです。

糟谷さんに対する権力犯罪は明らかです。

さて私は、アフガニスタンで医療と干ばつに取り組む「ペシャワール会」の理事をしています。先月銃撃されて亡くなった中村哲医師の「お別れ会」が1月25日に行われるので、その準備に関わっています。加えて昨年来体調が思わしくなく福岡から大阪に行く自信がありません。そんな訳で「糟谷君50周年集会」には参加できません、ご了解ください。

アフガニスタンの現地は栄養失調や水不足による伝染病の発生で死んでいく人が多くいます。中村哲さんは灌漑用水路を作ることによって住民が食糧を得ることができる、一家団欒でめしが食える、離村者が帰って来る。その事を願って現地で行動を実践してきました。灌漑用水路を作って、争いごとをしないことを、相手を思いやる気持ちが大切なこと訴えて来ました。

中村さんの意思はペシャワール会として、これからも受け継いでいきます。勝手ながらこの場をお借りして、ペシャワール会へのご支援をお願いさせていただき挨拶といたします。

2020年1月13日

糟谷君虐殺事件告発人・医師

福岡市在住

佐藤 耕造

糟谷君虐殺弾劾、告発付審判・裁判(11.13闘争公判)闘争の意義

◆告発 1976年12月14日 ◆不起訴処分 1971年9月7日 ◆付審判請求 1971年9月8日

◆審理①1974年6月14日、②9月10日、③12月17日、④1975年3月18日、⑤1976年1月26日

A) 警察の過剰警備・過剰規制、表現の自由への弾圧との闘い

○糟谷君殺害は弾圧の極致である。

○殺害警察官を告発する裁判闘争の展開による過剰警備の実態を暴露する

・1969年の警察による警備は過剰を極め、(首都東京程激烈ではないが)集会参加者への持ち物チェック、デモに対する過剰警備は、眼に余る状況であった。

○1969年12月14日 91名で告発、

1971年9月8日検察の不起訴処分に対して55名で付審判を請求

○糟谷君の死が過剰警備の結果であるとの非難を避けるため、糟谷君の死因を「デモ隊の同士打ち」として非難をかわそうと画策した大阪府警。そのことをもって佐藤訪米反対の世論を制圧しようとする目論みだ。

・(糟谷君死亡前)1969年11月13日夜、鈴木貞敏警備部長発言「けがの原因は調べてみないとわからないが、仮に警棒によるものだとしても、火炎びんを使って警察官を襲う相手を制圧するために警棒を使ったのだったら当然だ。」(共同通信)

○死因をめぐる警察との攻防

・死因に関する警察発表は種々変転

火炎びん説、転倒説は捜査から除かれ「警官の警棒・楯による打撲」と「デモ隊の鉄板棒による打撲」に絞られた。

・松倉鑑定は身体のけがの全所見を総合的に分析せず、部分しか注視していない。しかもごく稀に発生するかもしれない可能性のみをとりあげ「凶器はデモ隊の鉄板棒」と結論づけ「デモ隊の同士打ち説」を最終結論とした。

・佐藤耕造医師は、身体の全所見の分析及び状況からみて「警棒・楯による打撲」だと推論。

・同士打ち説は「逃げ遅れ」説と「奪還部隊節」があげられているが、逮捕直前の糟谷君の抵抗ぶり及び3警官の裁判証言から両説ともあり得ないことが判明。

・警察官荒木は、自分の警棒下部に糟谷君と同型の血痕が付着していたと証言。

B) 権力犯罪を糾弾する闘い

○糟谷君殺害は権力犯罪の極罪である。

○糟谷君死亡の原因を「警棒殴打」ではなく、デモ学生の「同士打ち」であるとし警察官の犯罪隠蔽を暴く闘い。

C) 糟谷君遺族に替わりて警察・検察を討つ闘い

○糟谷君殺害は「特別公務員暴行陵虐致死罪」である。

○糟谷君のご遺族が公然と警察を訴えることが困難な状況に際し、第三者が告発・付審判を請求。

- 「私は国に奉仕する公務員ですから国の裁きを信じて今までずっと辛抱してきましたが、これでは孝幸が自分で勝手に死んだということではないですか。私は見ているのです。孝幸の死体に残っていた無数の打撲傷は、何ですか。……。浅沼府警本部長は真相を究明するとおっしゃったが、真相がこれなら、孝幸も私たちもあまりにもみじめです。闇にだけはほうむりたくない。」(1971.9.8付朝日新聞・大阪地検不起訴処分報道時のコメント)

D) 人権を守る闘い

- 糟谷君殺害を告発・付審判することは、権力の職権乱用防止・人権救済の究極策である。
- 告訴・告発による人権蹂躪事件検察庁処理の実態 1959～1968)…告訴・告発約 6,000 人、不起訴(嫌疑なし・嫌疑不十分・罪とはならず)2,600 人、付審判請求 3,400 人
- 付審判請求の裁判所処理の実態…上記・付審判請求 3,400 人のうち起訴 2 人(告訴・告発人数の 0.03%が起訴)
- 公務員の職権濫用罪(刑法 193 条)…1947 年刑法改正で著しく量刑を引き上げ
- 付審判手続きの性格…刑事訴訟法は検察官がなした不起訴処分に対して裁判所の公正な審判を求める制度。
- 付審判手続きの審理方式…公務員の職権乱用罪につき厳重な刑罰を定めても処罰する手続きが公正・確実であることが必要、裁判所の審理に対する校正の担保は裁判の手続きである。

E) 告発・付審判闘争と裁判(11.13 闘争公判)闘争の連携 <55 プラス 24>

- 11.13 闘争公判
 - ・被告 24 名(当日現行犯 8 名・事後逮捕 16 名)、1970 年 7 月 9 日第 1 回公判、1974 年 5 月 29 日(第 30 回公判・判決)
- 被告の黙持に対して検事が異議申立て(第 7 回)、裁判長「あえて禁止せず」に対し検事退廷(第 8 回)、検事、黙とう終了するまで入廷せぬ(第 11 回)、被告黙持を中止
- 弁護側証人・荒木幸男突如出廷を拒否(第 24 回)、証言を拒否(第 25 回)、「警棒に糟谷君の血付着を証言(第 26 回)
- 判決…懲役 2 年 1 名、1 年 6 月 2 名、1 年 12 名、8 月 4 名、不明 5 名 (全員執行猶予 2～3 年)

F) 警察・検察 vs 司法・弁護士(K&K vs S&B)

日付	告発者)、裁判所)	検察庁)、警察)	備考
1969 年 12 月	告)告発		
1971 年 9 月		検)不起訴処分	1 年 9 か月後
1971 年 9 月	告)付審判請求		
1972 年 1 月	地裁)当事者公開發表		
1972 年 5 月		警)担当裁判官忌避申立	
1972 年 6 月	地裁)忌避申立却下		
1972 年 6 月		警)即時抗告申立	
1972 年 7 月	高裁)即時抗告棄却		

1972年7月		警)特別抗告申立	
1972年11月	最高裁)忌避申立棄却		
1973年2月	地裁)転任		
1973年4月	地裁)転任		時効:1976年12月
1973年6月		警)審理方式異議申立	
1973年7月	地裁)異議申立却下		
1973年7月		警)特別抗告申立	
1974年3月	最高裁)異議申立棄却		
1976年9月	地裁)付審判棄却決定		
1976年10月	告)抗告申立		
1976年10月	高裁)抗告棄却決定		

G) 虐殺糾弾・付審判闘争支援のおおきな渦

大阪地評議長・帖佐義行氏談「表現の自由、政治活動のじゆうは憲法で保障されている。警官がデモを弾圧する。抑圧されている人民へのどんな弾圧も許すわけにはいかん。だから総評は糟谷君の裁…きやならん。(付審判が)公開されて困るというのは府警に後ろぐらいことがあるからなのだろう。」(関西救援連絡センター機関紙『関西救援センター』)

H) 総評労働者との連携

○新聞報道に見る扇町集会の様子

- ・大会は午後5時から退勤前1時間のストをした全国金属など民間労組員約1万人が参加して第1次集会、同6時から全電通、全逓、国労、動労、大教祖、大阪府職、市職、など官公労系組員や部落解放同盟など各民主団体、社会党員など約2万人も参加して第2次集会を開いた。(1969.11.14付毎日朝刊)
- ・大阪府警調べのデモ参加者は、労組員1万3000人、学生4800人、反戦700人、ベ平連800人、その他700人、合せて役2万人。(1969.11.14付毎日朝刊)

糟谷君を虐殺したのは荒木幸男である。

- 糟谷君の全身に残された傷
頭部…A)左側頭前部の挫傷、B)左側頭骨上部の骨折、C)頭頂骨下部の骨折、D)頭頂部の皮下出血、
E)頭頂部冠状縫合離開（骨折）
顔面…F)鼻下部皮下出血、
右手右腕…伸側（外側）にのみ打撲による皮下出血とくに手関節に多し
- 佐藤耕造医師見解…棒状のもので頭頂部及び左側頭部を複数回殴打されたものか、前記殴打と左側頭部を地面へ打ち付けたものとの複合によるのかのいずれかである。凶器は全状況からみて警棒または大楯と推論する他あり得ない。
- 学生との同士討ちにより糟谷君の頭部骨折・挫傷が発生したとする「逃げ遅れ節」「奪還部隊との接触」説は公判での荒木証言によって不可能と証明された。
- 警察官荒木は、自分の警棒下部に糟谷君と同型の血痕が付着していたと証言。

告 発 状

告発人 別紙記載のとおり

大阪府寝屋川市寝屋川警察署

被告発人 荒木 幸男

同 赤松 昭雄

同 杉山 時史

同 その他糟谷孝幸

君の逮捕に協力し

た氏名不詳の警察

官数名

昭和四四年一月二三日

大阪地方検察庁 御中

告 発 の 事 実

被告発人らはいずれも大阪府寝屋川警察署の警察官であるが昭和四四年一

一月十三日午後六時三〇分頃、大阪市北区南扇町七番地大阪市水道局前路上において、公務執行妨害等の被疑事実により、糟谷孝幸君を逮捕するに際し

共謀の上、同人に対し、暴行、陵虐行為を加えんと企て、既に無抵抗状態にあった同人を取り囲み、路上に突き倒し、足蹴りし、所携の警棒、楯等により、同人の頭部、顔面をはじめ全身にわたって、二〇回に及ぶ殴打等の残虐な暴行を加え、右暴行に因り、同人の右上肢に十数カ所、両下腿部、両膝部、鼻部に各一カ所の打撲傷、左側頭部に頭蓋骨亀裂骨折、硬膜外血腫、脳挫傷等の傷害を与え、右の頭蓋内傷に因り、同月一四日午後九時、同人をして死亡するに致らしめ、もって警察の職務を行うに当り、刑事被疑者に対し暴行、陵虐の行為をなし、因って同人を死に致らしめたものである。

罪名及び罰条
特別公務員暴行陵虐致死
刑法第一九五条

告 発 の 理 由

一、被告発人および被害者において、被告発人荒木、同赤松、同杉山はいずれも大阪府寝屋川警察署に警察官として勤務しており、本年（昭和四四年）一月一三日には南扇町公園において開催された「佐藤訪米実力阻止」一一月安保決戦勝利全関西労学市民総決起集会」後のデモ行進を規制警備するために出動した大阪府警特別機動隊の一員として参加し行動していたが、その際糟谷孝幸君を公務執行妨害、凶器準備集合の被疑事実で現行犯逮捕したものである。

1.13 糟谷君追悼 50 周年集会に 140 名。感動的な集会となりました。 さらに、糟谷本の発行へご協力よろしくお願ひします。



加納洋一



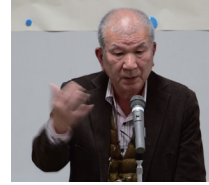
扇谷昭さん



荒木雅弘



海老坂武さん



山崎建夫さん



内藤秀之



山本久司さん



水戸喜世子さん



山崎雅毅さん



松井裕子さん



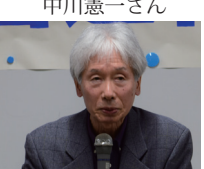
溝辺節子さん



岩木 要さん



中川憲一さん



白川真澄

1月13日「権力犯罪を許さない 忘れない、糟谷孝幸君追悼 50 周年集会」を大阪 PLP 会館で行いました。予想を上回る約 140 人が集まり、充実した内容で感動的な集会となりました。司会は田中幸也(世話人)・高村幸子(ふえみん岡山)。

最初に、69・11・13 大阪扇町闘争を共に闘った内藤秀之が主催者挨拶。続いて山崎博昭プロジェクトの山崎建夫さんから連帯の挨拶をいただきました。

次に 69 年当時ベ平連に参加していた海老坂武さん(フランス文学)が「1969 年とは何であったのか」と題して講演。そして特別報告として、荒木雅弘(告発を推進する会元事務局)が「糟谷虐殺告発運動の報告」を行いました。

休憩後、佐藤耕造医師・菅澤邦明さんからのメッセージ紹介、そしてスピーチへ。扇谷昭・加納洋一さん(糟谷同級生の岡山大 OB)、山本久司さん(11.13 闘争元被告団)、水戸喜世子さん(救援連絡センター)、山崎雅毅さん(石垣島で環境・反基地運動)、松井祐子さん(沖縄島ぐるみ会議)、溝辺節子さん(ふえみん婦人民主クラブ)、岩木要さん(当時のプロ学同委員長)、中川憲一さん(三里塚管制塔元被告)と続きました。最後に白川真澄が今後へのとりくみのお願いとして、11 月の記念本出版に向けて執筆と糟谷基金への協力、6 月シンポジウムなどを呼びかけました。(発言全容はまもなく HP にアップします。kasuya1969.com)

その後、約 100 人で現場である扇町公園へ移動して、献花をしました。終了後、天満駅近くの 2 つの会場に分かれて懇親会を行い交流を深めました。

糟谷君とともにたたかった世代、影響を受けた世代が、岡山・大阪・京都・首都圏はもちろん、沖縄・石垣島・広島・鳥取・兵庫・滋賀・和歌山・石川・神奈川・山形などからかけつけ、元気のでのる集会になりました。

ご協力いただいたみなさん、ありがとうございました。

裏面は、19 日の朝日新聞大阪の記事です。

集会全景 ↓

司会は田中幸也・高村幸子 →



69年デモで落命 糟谷さんを追悼

大阪で献花と集会

日米安保条約の期限が切れる1970年を前に、継続をめざす佐藤栄作首相の訪米に抗議する69年11月のデモで落命した糟谷孝幸さん(当時21)を追悼する献

糟谷孝幸さんと機動隊がぶつかった現場付近に花を手向ける参加者ら。大阪府北区の扇町公園



花が13日、現場の扇町公園(大阪府北区)であった。

献花前の集会では仏文学者の海老坂武さんが講演し、67、69年という時代を振り返った。それによると、世界的なベトナム反戦運動を基盤として、組織よりも個人を大切にしている意識

と市民運動が広がり、声をあげれば社会は変わるといふ希望を持てた時代だった。また海老坂さんは、現在の原発輸出や米軍基地建設といった「人間を殺そうとする政治」に対して、60年代の運動を支えた怒りと悲しみを呼び戻して立ち向かうことを呼びかけた。

兵庫県加古川市出身で岡山大学だった糟谷さんの同級生ら140人が参加。

「おとなしい生徒だった」「国家権力を倒したいというよりも、人間らしく生きたいというのが根底にあった」などと語りあった。

主催の「1969 糟谷孝幸50周年プロジェクト」(090・9410・6488)は11月に記録本を出す。賛同者を募っている。

(下地毅)

糟谷基金振込先

<銀行振込の場合> みずほ銀行岡山支店(店番号521)

口座番号: 3031882 口座名: 糟谷プロジェクト

<郵便局からの振込の場合> 記号 15400 番号 39802021

他金融機関からの場合 【店名】 五四八 【店番】 548

【預金種目】 普通預金 【口座番号】 3980202

1969 糟谷孝幸 50 周年プロジェクト: 内藤 秀之 (080-1926-6983)

〒708-1321 岡山県勝田郡奈義町宮内124

事務局連絡先 〒700-0971 岡山市北区野田5-8-11 ほっと企画気付

電話 086-242-5220 (090-9410-6488 山田雅美) FAX 086-244-7724

E-mail: m-yamada@po1.oninet.ne.jp ホームページ: kasuya1969.com